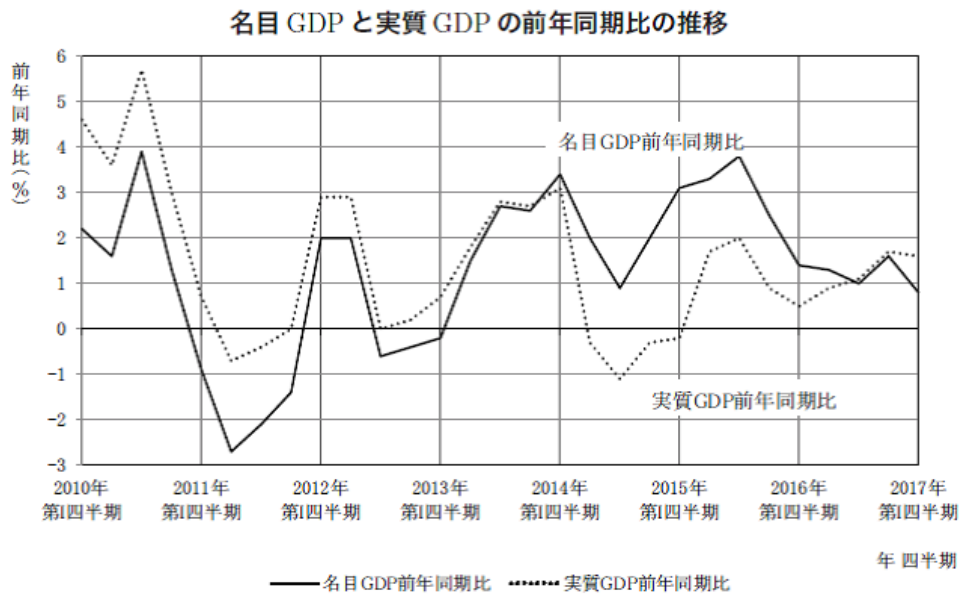




問2 次の図は、内閣府「国民経済計算」に基づく2010年第I四半期から2017年第I四半期までの四半期別の名目GDP（国内総生産）及び実質GDPの前年同期比の推移である。この図について、最も適切な説明を、下の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。



資料：内閣府「国民経済計算」

- ① 実質GDPは、名目GDPから物価変動の影響を除いたものである。このため、実質GDP前年同期比は名目GDP前年同期比よりも必ず低くなる。
- ② 2010年第I四半期から2013年第IV四半期までの期間において、GDPデフレーターの前年同期比はマイナスで、GDPデフレーターでみた物価水準は前年同期に比べて下落していた。
- ③ 2010年第I四半期から2017年第I四半期までの期間において、GDPデフレーターの前年同期比がプラスであった四半期の数は、マイナスであった四半期の数より多い。
- ④ 2014年4月の消費税率引上げは、名目GDP前年同期比と実質GDP前年同期比との関係に対して、全く影響を及ぼしていない。
- ⑤ 2010年第I四半期から2017年第I四半期までの期間において、GDPデフレーターの前年同期比が2%を超えたことはない。

(統計検定 統計調査士 2017)